

はじめに

こんにちは。この本を手にとっていただきましてありがとうございます。

現在、私は62歳で、どこの金融機関にも属さない独立系のファイナンシャル・プランナー（FP）として、主に50代以上の方を対象に、資産運用、年金、相続などの相談やアドバイス、今後のライフプランの作成サポートと、ライフプラン実現のための継続的なサポートなどを行っています。

最近では、ファイナンシャル・プランナーという言葉をも、一度は耳にしたことがあるという方も多くなってきましたが、ファイナンシャル・プランナーといえば、「保険」のイメージをお持ちの方も多いのではないのでしょうか？

FP資格を保有している人は、保険会社、保険代理店などに所属していたり、銀行などの金融機関に所属していたりするという「企業系FP」が圧倒的な多数派を占めています。私のように、どこの金融機関などにも属さない「独立系FP」は圧倒的な少数派です。というより超希少生物といってもいいと思います。

ここまでの説明では「企業系FP」と「独立系FP」の違いはわかったけれど、「ファイナンシャル・プランナーっていったいどういう仕事なの？」という疑問は残ったままですよね。

その点について少し説明をさせていただくと、日本FP協会のホームページでは、FPの役割は『人生の夢や目標をかなえるために総合的な資金計画を立て、経済的な側面から実現に導く方法を「ファイナンシャル・プランニング」といいます。ファイナンシャル・プランニングには、家計にかかわる金融、税制、不動産、住宅ローン、保険、教育資金、年金制度など幅広い知識が必要になります。これらの知識を備え、相談者の夢や目標がかなうように一緒に考え、サポートする専門家が、FP（ファイナンシャル・プランナー）です。』と定義されています。

出典：日本FP協会『ファイナンシャル・プランナー（FP）とは』<https://www.jafp.or.jp/aim/fpoha/fp/> 2025年1月20日

このようなファイナンシャル・プランナーの役割を果たすためには「家計管理」「金融」「保険」「年金」「税金」「不動産」「相続」などの幅広い知識が必要になります。

保険会社や保険代理店、金融機関などに所属している多くのファイナンシャル・プランナーは、習得した幅広い知識を活かして、保険や金融商品を販売することを目的としています。

ほとんどの場合、さまざまなプランを立てることは、主たる業務ではありません。

私のようなこの金融機関などにも属さない「独立系FP」の主たる業務は、定義されているとおり、

ライフプランなどさまざまなプランの作成サポートとそれを実行するサポートになります。

私は、今後日本では、このような役割を果たす「独立系FP」のニーズが、急速に高まる可能性を秘めていると考えています。その理由は、人生100年時代といわれるように超高齢社会を迎えていること、終身雇用制度の崩壊、デフレ経済からインフレ経済への転換などの社会経済環境の変化により、生き方や働き方、社会保険制度や税制、金融商品などの選択肢が広がるとともに、より複雑化していくからです。

このようななかで、一緒になってライフプランを考え、自分と家族にとってより良い選択ができるよう導いてくれるファイナンシャル・プランナーの存在はますます重要になります。

私が、この本を書くに至ったのは、日頃、50〜60代の方々からの相談やライフプラン作成のサポートをしている場面や、定年退職前の方々を対象とした「退職準備セミナー」でお伝えしていることをより多くの方々にお伝えしたいと思ったからです。

そして、私が相談に来られたお客様やセミナーに参加された方に対して、お伝えしていることの背景にあるのは、私の同級生など、同年代のサラリーマンの方々と話をしているなかで、「もう年だから」「別にやりたいことはないから」「今さら」……といった後ろ向きな発言ばかりを耳にすることに対して

違和感というか、危機感を抱いているからです。

この本を読んでほしい方は、そろそろ定年退職後のことについて考えている、あるいは、悩んでいる、迷っている50～60代のサラリーマンの方です。

この本では、まずは50～60代のサラリーマンの方にとつての、これからの時代の「生き方」「働き方・キャリアプラン」の考え方、経済的な側面に着目した「ライフプラン」の作成の手順などについてご紹介します。

次に、定年退職後の収入のひとつ柱である公的年金制度について理解を深め、支出の見直し、資産運用や金融商品・保険の選び方などのポイントをお伝えします。

さらに、多くの50～60代の方が直面する問題である、親の介護・認知症と相続について、知っておいてほしいことを中心に情報提供を行います。

最後に、私が50代後半から経験してきたこと、幸せを実感しながら生きていくためには、どのように考えることが必要なのか？をお伝えします。